

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 傾聴 | 傾聴のトレーニング (11)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

傾聴のトレーニング (11)

第2ステップで学んだ「共感的な伝え返し」をより実際のカウンセリングに近いかたちで練習していこう。

第3ステップ

「共感的な伝え返し」の練習 [ロングバージョン](#)

(2) カウンセリングにおける傾聴を5つのランクに分けてみる。

AAA (トリプルA) の傾聴、AA (ダブルA) の傾聴、Bの傾聴、Cの傾聴。

Cの傾聴

Cの傾聴は「ずれている傾聴」だ。

事実としては違っていないけれども、クライアントの気持ちとは微妙にずれている。

クライアントの気持ちを「葛藤」とか「不安」とか「絶望」といった、おおよかな抽象度の高い言葉で、括ってしまう癖。

「つまり、あなたはとても不安なんですね」とか

「あなたはともかく、絶望しておられる」などとカウンセラーに言われると、

「そうか、私、不安なんだ」「私のような人間のことを絶望した人と言うんだ」と、

そこで否定的な気持ちに導かれてしまう。

Bの傾聴

Bの傾聴は「ずれてはいないけど、長すぎたり、短すぎたりする応答」だ。

クライアントの話を、ベタッとオウム返しのようにそのまま全部返されると、クライアントのほうとしては、イライラしてしまう。

また逆に言葉足らずだと、物足りなくなる。

クライアントが、何度も同じことをくり返し話すのは、よほど大切な話か、カウンセラーにわかってもらえた気がしないからである。

Aの傾聴

Aの傾聴は「過不足のない的確な応答ができる傾聴」だ。

長すぎず短すぎず、クライアントの表現のエッセンスを的確に言葉にして伝え返していく応答、を身につける。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 📄 このサイトについて 📄 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.